

ANDEAN "FAR WEST"

# アンデスをむしばむ黄金の魔力

PHOTOGRAPHS BY CÉDRIC GERBEHAYE

氷河に覆われたアナネアの金鉱山には、水銀を洗い流す水を運ぶ多くのホースが。汚染された雪解け水は麓の町へと流れる





(右上から反時計回りに)市内と金山をつなぐ険しい山道を歩く鉱山労働者、採掘現場へと続くトンネルは氷で覆われ酸素供給も安全装置もない、捨てられる鉱石に金が交じっていないか手作業で確認する女性労働者にはシングルマザーや夫を亡くした女性が多い、採掘した金の換金計算に友人と共に見入る鉱山労働者のダビド(左)

2000年初頭からの10年間で、ペルーは空前の経済成長を遂げた。その原動力は豊富な鉱物資源で、金もまたその1つ。だが「闇金山」ともいうべき違法な採掘現場の存在と実態を知る人は少ない。写真家セドリック・ジェルブエが捉えたのは、標高5200mという世界で最も高い場所にあるとされる金鉱山とその周囲に開けた町ラ・リンコナダだ。気温は常に氷点下で、酸素濃度は平地の半分以下。上下水道もなく、警察もないため暴力や殺人が横行している。

この過酷な環境に、ゴールドラッシュの成功者となるべく5万以上の人が住む。数日ともいわれる違法な採掘現場を管理する鉱山業者の下で、作業員たちは1日10時間以上働くこともある。鉱石から金を分離するために使われる水銀により氷河は汚染され、その雪解け水が麓の町やチチカカ湖へと流れて行く。

インカ帝国は、その豊富な黄金が故にスペインの侵略に遭った。現代のペルーは、金によって自ら国土をむしろんでいるように見える。





▶ Photographs by Cédric Gerbehaye-MAPS |

**撮影:セドリック・ジェルブエ** 1977年、ベルギー生まれ。ジャーナリズムを学び、2002年からパレスチナ問題を長期取材。内戦後の混乱するコンゴや南スーダン、独仏の「緩衝地帯」としてのベルギーなども撮影し、多くの作品を発表している。ブリュッセル在住

(左上から時計回りに)町に放置された廃棄物の上を飛ぶ鳥、酔いつぶれて路上で眠るバルトーラ(64)は今亡き夫と共に1970年代にこの地に来た初期入植者、ダイナマイトを設置するため採掘現場へ入る準備をする鉱山労働者、泥道を歩く親子が住む町は劣悪な衛生環境で犯罪も横行する、チチカカ湖で伝統漁を営むマルコス(62)は金山から流れ出る水銀による水質汚染に直面している

